

ほけんだより

病児・病後児保育「みどり」
令和7年8月発行



今月のテーマは「**手足口病とは？**」です！

手足口病とは、ウイルスなどに感染することで起こる感染症です。人から人へ感染します発熱や身体のだるさなど、風邪の症状が現れますが、皮膚症状がより特徴的です。



主に
水疱性の赤い発疹があらわれるため手足口病と呼ばれています。5歳くらいまでの子どもに発症することが多く、ほとんどの人が子どものうちに感染しますが、子どもから大人にうつることもあります。

感染経路は？

主な感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染（便に含まれたウイルスが手指を介して体内に入ること）の3つがあります。特に幼稚園や保育園などでは長い時間子どもたちが一緒に過ごすため、感染が拡大しやすいという特徴があります。



初期症状

感染後3～5日後に発疹が出始めます。体に発疹が現れてから手足口病と気づくことが多いです。口の中の発疹は痛みがあることも多く、のどの痛みによって症状に気づくこともあります。

特に自分の言葉で痛みを訴えることのできない赤ちゃんは気づけないことがあるので、泣き止まない、機嫌が悪い、よだれが多い、食欲がないなどサインがあるときは手足、口の中に発疹ができているかどうか確認してあげてください。



食事や水分を取りにくいときは、脱水予防を！

数日～1週間ほどで自然に治りますが、口の中の痛みで水分が取れなかったり、高熱が出たときは脱水に注意です！少しずつでもこまめに水分を取りましょう。